

IV. 教育課程の評価・改善の取組

佐伯市立鶴岡小学校

総則部会の主題

学習指導要領に示された目標や内容に基づきながら、地域や学校の実態及び児童の心身の発達段階等に即したよりよい教育課程を編成・実施していくために、教育課程の評価・改善をどのように組織的・計画的にすすめるか。

1. 取組

教育課程の評価改善の検証サイクルの確立（別紙2枚）

- ①どのような場（委員会）を設定し、それぞれの場でどのような内容を検討すればよいか研究する。その際、「ミドルアップマネジメント」が効果的に機能するよう考慮する。また、それぞれの組織の役割、検討する内容、参加者を明らかにする。
- ②評価・改善を確実にする工程管理の方法として、どのような工程管理表（PDCAサイクル表）を作成すればよいかを明らかにする。

2. 成果

工程管理表を作成することにより、誰（どの組織）が何をいつまでにするかが明確になり、各主任が責任を持ち、見通しを立てながら、短期にPDCAサイクルを回せるようになってきた。

ただ、昨年度まで評価・改善の時間の確保に難しい面があったが、今年度は、ミニ運営委員会のメンバーと各学年部の教員とで1学期の評価・改善について話し合いを行った。また、2学期の評価・改善も目標管理における面談Ⅱを各学級担任一人一人と面談せず、校長・教頭と各学年部が一同に面談、それに教務主任と研究主任が同席するという形をとった。この結果、昨年度の比べ効率的に評価・改善が図ることができた。授業や朝学習のあり方など（例えば、ある学年部の算数では朝学習時習熟度別に3コースに分ける・別の学年部では条件をつけた文章を書かせるなど）具体的に学年部が一体となって改善策が図られたのも成果であった。

3. 課題

学校教育目標やそれに向けた達成指標と日々の授業実践を含めた教育活動とが連動している（連動させなければいけない）ことを、各主任は理解し取り組んでいるが、主任以外の教員となるとまだ十分とはいえない面もある。

4. 改善

この工程表は今年度後半に作成した。来年度は年度当初よりこの工程表を全職員に提示し、職員一人一人が学校教育目標と日々の教育活動が連動していることを理解し、実践できるようにしたい。

また、組織別の工程表には各実施時期としてその月の上旬・中旬・下旬で表しているが、来年度は日付を入れるようにしたい。

今年度重点目標等4点セットの設定は校長・教頭・教務で協議し、校長が決定したが、来年度は協議の場に各学年主任も加わったらよいのではないかと。設定協議に直接加わった学年長はより責任感を持つであろうし、各学年部は一体となって学校教育目標達成に向けて組織的に取り組むと考える。